

# 聖路加国際病院整形外科専門研修プログラム

## 目次

- I. 聖路加国際病院整形外科専門研修プログラムについて
- II. 聖路加国際病院整形外科専門研修の特徴
- III. 聖路加国際病院整形外科専門研修の目標と研修方法
  - ・ 専門研修後の成果
  - ・ 研修方法
  - ・ 基本方針
  - ・ 研修計画
  - ・ 研修およびプログラムの評価計画
- IV. 聖路加国際病院整形外科専門研修の方法
- V. 研修プログラムの施設群について
- VI. 専門研修プログラムを支える体制
- VII. 専攻医受入人数と応募方法

## I. 聖路加国際病院整形外科専門研修プログラムについて

聖路加国際病院整形外科専門研修プログラムは、到達目標を『圧倒的な臨床経験数をもとに正確な知識と技術を身につけた整形外科医』としています。この理念を達成するために、専門研修プログラムとしては、以下の4点を重要視しています。

### ①豊富な手術症例数

高度な技術と正確な判断能力を持った外科医を育むためには、なによりも手術を数多く行うことが大切と考えます。3次救急を担う救急センターを有し、また地域中核病院として集まる豊富な症例を背景として、専攻医1年目の昨年度の執刀数は約100例に達します。専攻医が執刀できる手術術式は大まかに学年により決まっており、その中で上級医の指導のもと、できるだけ多くの執刀を行います。

### ②指導体制

手術、外来、病棟管理を行うにあたり、的確な判断能力を養うため、基幹施設である聖路加国際病院の伝統である屋根瓦式の指導体制をとっています。専攻医は執刀医であっても必ず上級医と入り、安全に遂行できるようなバックアップ体制をとっています。

### ③探究心

臨床を通して浮かんでくる疑問に対して、どう解明していくか。専攻医はカンファレンスにおいて論文を読み、学会で発表し、そして、論文を作成することで多くのことを学べます。プログラムの質も大事ですが、最も大切なものは専攻医の学ぶ姿勢です。研修病院としての長い歴史によって培った聖路加国際病院の指導体制や風土は専攻医が自身で考える癖をつけさせ、自分から学ぶ姿

勢を作るサポートを行い、問題を解決するための適切な方法を助言します。

#### ④臨床研究

臨床での実践とともに、研究にも力を入れています。聖路加国際病院は臨床疫学センターを有し、自身の研究に関して研究計画、解析などのサポートがいつでも得られる環境にあります。さらには2017年より公衆衛生学大学院が開設され、条件が合えば、臨床を続けながら大学院に通うことができます。これにより、臨床研究に必要な学術的知識が得られ、臨床医としてより飛躍することが可能になります。2017年度は整形外科からも1名が2ヶ月の短期コースを受講しました。

～聖路加公衆衛生大学院について～

- ・2017年4月より聖路加国際大学大学院・公衆衛生学研究科専門職学位課程（通称：聖路加公衆衛生大学院）が開設されました。
- ・公衆衛生大学院では臨床研究に必要な疫学、生物統計学等定性的定量的分析方法の専門知識、技能を体系的に学修することができ、将来的に臨床研究における指導的立場を志す場合には、公衆衛生大学院での通学、学位取得が推奨されます。
- ・大学院は病院に隣接し、社会人が働きながら学べる環境（講義科目のe-learning、演習・実習科目を中心とした平日夜間・土曜日の時間割設定、1年間の集中コース、3年間の長期在学コースなど）が整えられています。
- ・主な科目は、疫学（疫学概論、臨床疫学、疫学実習、薬剤疫学、慢性疾患疫学、分子疫学）、医療統計学（生物統計学Ⅰ、生物統計学実習Ⅰ、生物統計学Ⅱ、生物統計学実習Ⅱ）、公衆衛生応用科目（環境科学、医療政策管理学、医療経済学、健康・行動科学、健康情報・決断科学、医療人類学）、学際健康科学科目（国際保健学、生命・医療倫理学総論、公衆衛生の倫理学、病院管理学、栄養学、

公衆衛生免疫学、国際感染症学、母子保健学)、共通科目(医学概論Ⅰ、医学概論Ⅱ、MPHセミナー、実践課題)

聖路加国際病院は各診療科間の隔たりがなく、患者への最良の治療を目指して複数の診療科が連携して治療を行うことが可能な病院です。専攻医も、看護師やコメディカルなどから成るチーム医療の一員として行動することで、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を研鑽し、周囲から信頼される整形外科医へと成長出来ます。聖路加国際病院には、医師が看護師やメディカルスタッフと互いに成長し合う土壌があります。

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児から高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を習得するために、本研修プログラムでは1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとります。全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、基幹施設および連携施設をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた単位数以上を修得し、3年9か月間で45単位を修得するプロセスで研修を行います。

整形外科専門研修プログラムにおいて必要とされる症例数は、専攻医1名につき年間新患数が500例、年間手術症例が40例と定められておりますが、聖路加国際病院のみで年間新患数 3486名(2016年度)、年間手術件数1123件(2016年度)の豊富な症例数を有し、必要症例数をはるかに上回る症例を経験することが可能です。また、都内市中病院整形外科勉強会への参加(年8回)、外部の学会での発表(年1回以上)と論文執筆(研修期間中1編以上)を行うこと

によって、各専門領域における臨床研究に深く関わりを持つことができます。本研修プログラム修了後に、この臨床経験をもとに大学院への進学やサブスペシャリティ領域の研修へ速やかに移行できます。本研修プログラム修了後にいかなる道に進もうとも、礎となる土台を形成できます。

## Ⅱ. 聖路加国際病院整形外科専門研修の特徴

### ① 専門研修基幹施設（聖路加国際病院）

聖路加国際病院の研修システムの歴史は古く、1930年代の戦前から日本で唯一、レジデント教育を実践してきました。一貫して独自のローテーションシステムに取り組み、我が国の研修制度のモデルとなってきました。熱心な指導を受けた研修医が次に上級医となると、自然と自分がしてもらった以上に熱心に後輩を指導し、その積み重ねにより聖路加特有の屋根瓦式に後輩を指導する環境が成熟していきました。聖路加国際病院にとって、医師が教育熱心であることは当たり前です。それは各科共通の隔ての無い理解であり、診療科の垣根を超えたチーム医療が実践されています。医師人生において、スポンジのように色々なことを吸収できる専攻医時代に、一つの科のみの狭い世界ではなく、色々な科から指導を通じて刺激を受けることは、整形外科医としての礎を築く上で、非常に重要と我々は考えています。

聖路加国際病院整形外科は一般整形外科としての知識、技量を十分に培った上で、サブスペシャリティとしての専門領域を持つことを推奨しています。研修中は、上肢、下肢、脊椎の専門グループをローテーションし、バランス良く研修することができます。おおまかな週間予定表を下に示します。

聖路加国際病院整形外科 週間予定表

	月	火	水	木	金
朝	・ジャーナルクラブ ・リサーチプログレス	病棟カンファ			
午前	手術・外来・病棟業務	外来・病棟業務	手術・外来・病棟業務	手術・外来・病棟業務	外来・病棟業務
午後	手術・外来・病棟業務	外来・病棟業務	手術・外来・病棟業務	手術・外来・病棟業務	外来・病棟業務
夕方		術前カンファ			

聖路加国際病院整形外科のもう一つの特徴として色々な大学出身の整形外科医で構成されていることが挙げられます。出身の違いを認め、違いを尊重する風土からダイバーシティ（多様性）が生まれ、その中で新しいものが形成されていく。それは患者の背景を理解する上でも大切なこととなり、医師としてのスキルアップにもつながります。

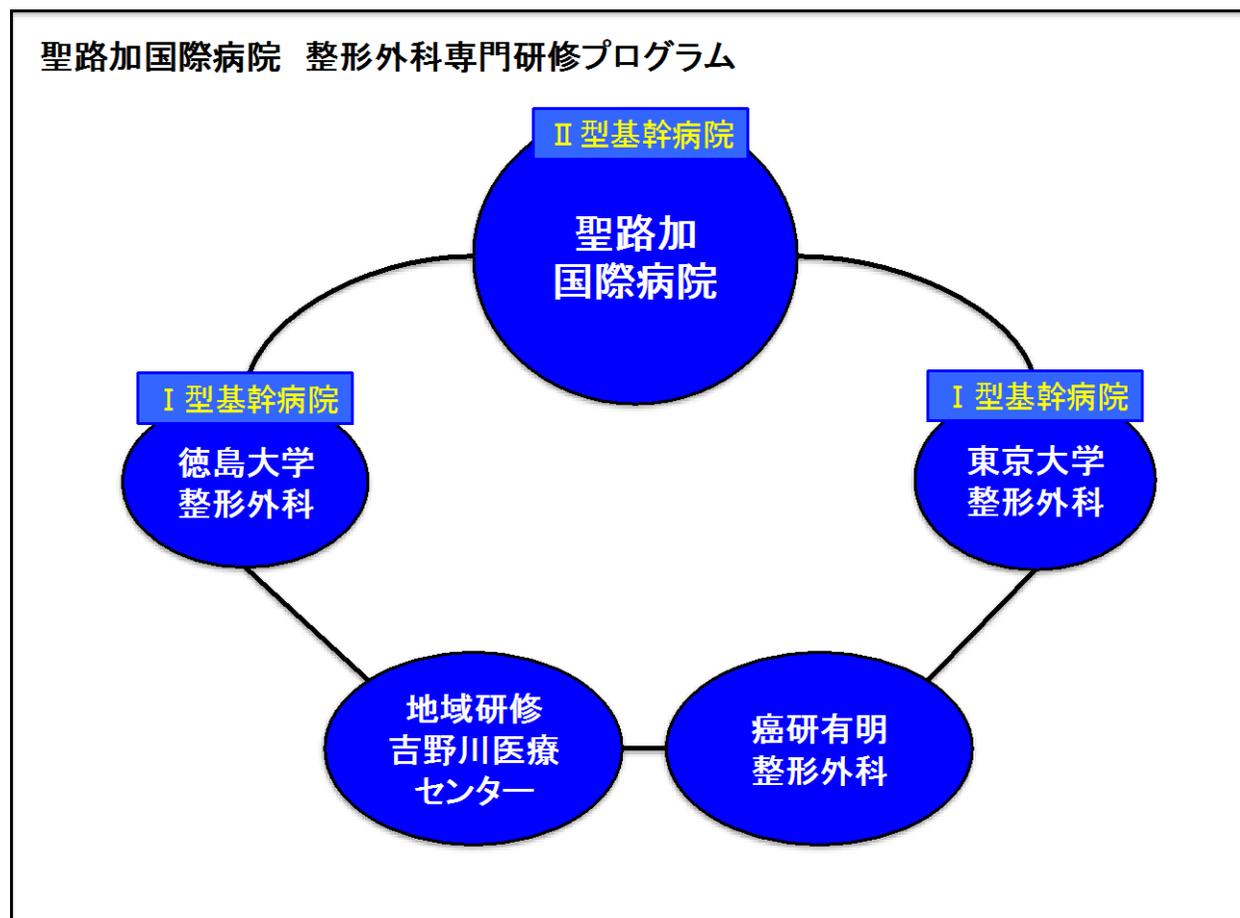
最終学年である4年目にはChief Resident (CR:チーフレジデント)として整形外科内を切り盛りする重要な役割を務めます。これは整形外科を代表して病院の最前線で他科との交渉を行い、病院内の委員会に出席して意見を言い、手術運営をマネジメントする。多忙ではありますが、これにより社会人として管理する側の人間に必要な運営する能力を磨くことができ、チーフレジデントを終えた専攻医は例外なく飛躍します。

## ② 専門研修連携施設

本専門研修プログラムでは、東京大学医学部附属病院、徳島大学病院、がん研有明病院、徳島県吉野川医療センターと連携しています。いずれも高い専門性を持ち、基幹施設での研修で補えない専門分野の研修を行うことができます。東京大学医学部附属病院ではリウマチと小児もしくはは脊椎、徳島大学病院では脊椎、吉野川医療センターでは地域医療、がん研所有明病院では腫瘍と小児の研修を受けることができます。

## ③ 研修コースの具体例

本専門研修プログラムでの具体例を下に示します。



専攻医は初年度には基幹施設で多数の手術と症例を経験し、2年目から3年目半ばまで連携施設で専門性の高い研修および地域研修を受けます。3年目半ばから4年目は基幹施設で研修となり、4年目はチーフレジデントとして整形外科をまとめる大役を務めます。

研修ローテーション表

	1年目		2年目		3年目		4年目	
	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
研修施設	聖路加	聖路加	がん研	東大	徳島大 吉野川	聖路加	聖路加CR	聖路加CR

\* CR: チーフレジデント

研修単位詳細

	1年目		2年目		3年目		4年目		終了時
	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	
研修施設	聖路加	聖路加	がん研	東大	徳島大 吉野川	聖路加	聖路加	聖路加	
a. 脊椎6単位				3	3				6
b. 上肢6単位	3						3		6
c. 下肢6単位		3						3	6
d. 外傷6単位		3				3			6
e. リウマチ3単位				3					3
f. リハビリ3単位						3			3
g. スポーツ3単位	3								3
h. 地域医療3単位					3				3
i. 小児2単位			2						2
j. 腫瘍2単位			2						2
流動5単位			2(聖路加)				3		5
合計									45

\*実際の研修期間は連携施設との兼ね合いにより異なる場合もあります。

### Ⅲ. 聖路加国際病院整形外科専門研修の目標、研修方法

#### ① 専門研修後の成果

本専門研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力(知識・技能・態度)が身についた整形外科専門医となることができます。また、同時に専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシーも習得できます。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること(プロフェッショナルリズム)
- 3) 診療記録の適確な記載ができること
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を修得すること
- 6) チーム医療の一員として行動すること
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと
- 8) 地域医療における包括的なチーム医療の一員としての役割を学ぶこと。

②研修方法:参照資料整形外科専門研修プログラム整備基準及び付属資料(日本整形外科学会 HP)

<http://www.joa.or.jp/jp/edu/index.html>

### ③基本方針

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、聖路加国際病院および連携施設群において研修を行います。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラ

ム整備基準付属解説資料 1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料 2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科学会会員マイページを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の12月に研修プログラム管理委員会において、専門研修修了判定を行います。判定基準は【4.6 修了要件】に定めるとおりです。

このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第三者の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

### ③ 研修計画

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を形成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域

で定められた修得単位数以上を修得し、3年9か月間で45単位を修得する修練プロセスで研修します。

#### ④-1 専門知識の習得計画

本研修プログラムでは、専門知識を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識能習得状況を6ヵ月毎に評価します(自己評価および指導医評価)。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータをまとめた評価表(図1)を参照し、知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。専攻医の過半数が獲得できていない知識があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

#### ④-2 専門技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門技能を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し技能能習得状況を6ヵ月毎に評価します(自己評価および指導医評価)。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータをまとめた評価表(図1)を参照し、技能習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医の過半数が獲得できていない技能があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

#### ④-3 経験目標(経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等)

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を聖路加国際病院及び連

携施設で偏りがないように経験することを目標とします。経験の不足している分野については、その後の研修施設において経験可能なように配慮します。

#### ④-4 プログラム全体と各施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会はすべての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。

#### ④-5 リサーチマインドの養成計画

東京大学や徳島大学での研修、聖路加国際病院においても、リサーチプロセスに参加し、自身が任させる研究に関するの発表を行います。また抄読会で論文を深く読み込み、まとめます。これらの作業によりリサーチマインドを養うことを目標とします。聖路加国際病院は臨床疫学センターを有し、研究立案から解析まで、最大限のバックアップを得られます。

#### ④-6 学術活動に関する具体的目標とその指導体制(専攻医1人あたりの学会発表、論文等)

専攻医が学会発表年1回以上、また論文執筆を年1本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、面接時に指導・助言します。

#### ④-7 コアコンピテンシーの研修計画(医療倫理、医療安全、院内感染対策等) 整形外科専門医としての臨床能力(コンピテンシー)には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力(コアコンピテンシー)が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力(コアコンピテンシー)を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力(コアコン

ピテンシー)を早期に獲得させます。聖路加国際病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

#### ④-8 地域医療に関する研修計画

整形外科専門医制度は、地域の整形外科医療を守ることを念頭に置いています。地域医療研修病院における外来診療および二次救急医療に従事し、主として一般整形外科外傷の診断、治療、手術に関する研修を行います。また地域医療研修病院における周囲医療機関との病病連携、病診連携を経験・習得します。本研修プログラムでは、専門研修基幹施設である聖路加国際病院が存在する、東京 23 区以外の徳島県にて地域医療研修病院に3ヶ月(3単位)以上勤務することによりこれを行います。

#### ④-9 サブスペシャルティ領域との連続性について

整形外科専門医のサブスペシャルティ領域として、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ医学会専門医、日本手外科学会専門医があります。本プログラムはこれらサブスペシャルティ領域の研修施設、スポーツ医学や人工関節手術に多くの実績のある施設が含まれています。整形外科専門研修期間からこれらのサブスペシャルティ領域の研修を行うことができ、専攻医のサブスペシャルティ領域の専門研修や学術活動を支援します。

#### ⑤ 研修およびプログラムの評価計画

##### ⑤-1 専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を6ヵ月に1回行い(9月末および3月末)、専門研修プログラム管理委員会に提出します。他職種も含めた聖路加国際病院および各研修施設での研修評価(態度も含めた総評)を各施設での研修終了時に行います。専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教

育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。

上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年1回年度末に評価します。

#### ⑤-2 他職種評価

専攻医に対する評価判定に他職種(看護師、技師等)の医療従事者の意見も加えて医師としての全体的な360度の評価を行い専攻医評価表(資料10)に記入します。専攻医評価表には指導医名以外に医療従事者代表者名を記します。

#### ⑥-3 専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括(副)責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。聖路加国際病院に専門研修管理事務局を置き、専門研修管理に係る財務・事務を行います。年4回の定期委員会(6、9、12、3月)を開催し、専攻医4年次の修了判定委員会を行います。必要時に臨時委員会を開催します。専門研修プログラム管理委員会活動報告をまとめ、各研修連携施設および専攻医に報告します。

#### ⑤-4 プログラムとしてのFD (Faculty Development) の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料12「整形外科指導医マニュアル」に従って専攻医を指導します。指導医の指導技能向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

#### ⑤-5 専門研修プログラムの改善方法

専門研修プログラム管理委員会で年 1回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

#### ⑥ 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートや面接などで各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

#### ⑦ 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計6ヶ月間以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が6ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が1年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

#### ⑧ 修了要件

1. 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
2. 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
3. 臨床医として十分な適性が備わっていること。

4. 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により30単位を修得していること。
5. 1回以上の学会発表、また筆頭著者として1編以上の論文があること。

以上1～5の修了認定基準をもとに、専攻研修4年目の12月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

#### IV. 聖路加国際病院整形外科専門研修の方法

##### ① 臨床現場での学習

研修内容を修練するにあたっては、1ヶ月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを10の研修領域に分割し、基幹施設および連携施設をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、3年9か月間で45単位を修得する修練プロセスで研修します。

本研修プログラムにおいては手術手技を800例以上経験し、そのうち術者としては250例以上を経験することができます。尚、術者として経験すべき症例 については、別添する資料 3: 整形外科専門研修カリキュラムに示した(A: それぞれについて最低5例以上経験すべき疾患、B: それぞれについて最低1例 以上経験すべき疾患)疾患の中のものとしします。

術前術後カンファレンスにおいて手術報告をすることで、手技および手術の方法や注意点を深く理解し、整形外科的専門技能の習得を行います。

指導医は上記の事柄について、責任を持って指導します。

## ② 臨床現場を離れた学習

日本整形外科学会学術集会時に教育研修講演(医療安全、感染管理、医療倫理、指導・教育、評価法に関する講演を含む)に参加します。また関連学会・研究会において日本整形外科学会が認定する教育研修会、各種研修セミナーで、国内外の標準的な治療および先進的・研究的治療を学習します。特に本専門研修プログラマでは、東京大学同門会が主催する整形外科卒後研修セミナー(年2回)や聖路加国際病院整形外科が主催する勉強会(年2回)に参加することにより、他病院からの多領域にわたる最新知識の講義を受けることができます。

## ③ 自己学習

日本整形外科学会や関連学会が認定する教育講演受講、日本整形外科学会が作成する e-Learning や Teaching file などを活用して、より広く、より深く学習することができます。日本整形外科学会作成の整形外科卒後研修用 DVD 等を利用することにより、診断・検査・治療等についての教育を受けることもできます。

## ④ 専門研修中の年度毎の知識・技能・態度の修練プロセス

整形外科専門医としての臨床能力(コンピテンシー)には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力(コアコンピテンシー)が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力(コアコンピテンシー)を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力(コアコンピテンシー)を早期に獲得することを目標とします。

## V. 研修プログラムの施設群について

### ① 専門研修基幹施設

聖路加国際病院が専門研修基幹施設となります。

### ② 専門研修施設群

聖路加国際病院と連携施設により専門研修施設群を構成します。プログラムの施設群を構成する連携病院は以下の通りです。専門研修連携施設の認定基準を満たしています。

- ・ 東京大学医学部附属病院
- ・ 徳島大学病院
- ・ がん研究会有明病院
- ・ 徳島県吉野川医療センター

### ③ 専門研修施設群の地理的範囲

聖路加国際病院整形外科専門研修プログラムの専門研修施設群は東京都内及び徳島県県にあります。施設群の中には、地域中核病院が含まれています。

## VI 専門研修プログラムを支える体制

### ① 専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である聖路加国際病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）及び指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価体制を整備します。専門研修プログラムの管理には添付した日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表

などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることから研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置き、年に一度開催します。

## ② 労働環境、労働安全、勤務条件

労働環境、労働安全、勤務条件等は各専門研修基幹施設や専門研修連携施設の病院規定によります。

- 1) 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- 2) 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- 3) 過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- 4) 施設の給与体系を明示し、4年間の研修で専攻医間に大きな差が出ないように配慮します。

専攻医の勤務時間、休日、当直、給与などの勤務条件については、労働基準法を遵守し、各施設の労使協定に従います。さらに、専攻医の心身の健康維持への配慮、当直業務と夜間診療業務の区別とそれぞれに対応した適切な対価を支払うこと、バックアップ体制、適切な休養などについて、勤務開始の時点で説明を行います。

総括的評価を行う際、専攻医及び指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は聖路加国際病院整形外科専門研修管理委員会に報告されますが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれます。

## ③ 2型基幹施設の役割

2型基幹施設である聖路加国際病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。

聖路加国際病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行います。

#### ④ 専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を1回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を5年に1回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

#### ⑤ プログラム管理委員会の役割と権限

1) 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。

2) 整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより、各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。

3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。

4) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。

5) 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。

6) 聖路加国際病院は連携施設とともに研修施設群を形成します。聖路加国際病院に置かれたプログラム統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

#### ⑥ プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研究実績を満たした整形外科医とされております。

1) 整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医

2) 医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文 3 編を有する者。

### VII. 専攻医受入人数と応募方法

#### ① 受入人数

当プログラムの研修連携施設全体の指導医数は26名、年間新患者数10000症例以上、年間手術症例も4800症例以上で十分な指導医数・症例数を有しますが、質量ともに十分な指導を提供するために

1年2名、4年で8名

を受入数とします。

## ②採用方法

### 応募資格

初期臨床研修修了見込みの者であること。

### 採用方法

基幹施設である 聖路加国際病院整形外科に置かれた整形外科専門研修プログラム管理委員会が、整形外科専門研修プログラムをホームページや印刷物により毎年公表します。毎年7月頃より説明会などを複数回行い、整形外科専攻医を募集します。

翌年度のプログラムへの応募者は、研修プログラム責任者宛に所定の形式の『聖路加国際病院整形外科専門研修プログラム応募申請書』及び履歴書を提出します。申請書は(1) 聖路加国際病院整形外科の website (URL:<http://hospital.luke.ac.jp>)よりダウンロード、(2) 医局に e-mail で問い合わせ ([amaken@luke.ac.jp](mailto:amaken@luke.ac.jp))、のいずれの方法でも入手可能です。原則として 10 月中に書類選考及び面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者及び選考結果については12月の聖路加国際病院整形外科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

【募集期間】7月末～9月30日(定員に満たない場合は第2回目の募集も予定します)

**【問い合わせ先】**

104-8560 東京都中央区明石町9-1

聖路加国際病院 整形外科

担当： 天羽健太郎 （専門研修プログラム担当）

tel: 03-3541-5151

mail: amaken@luke.ac.jp